

2009 年度原稿

②森里海連環学実習 B「紀伊半島の森と里と海」

里地生態保全学分野 梅本信也 准教授

本実習は、紀伊半島南部に広がる古座川流域と串本湾岸域に展開する自然域と里域（里海、里地、里川、里池、里谷、里原、里山、里空）を対象に、フィールド調査の理論と実践的手法を体感させ、現地観察や聞き取り、各域から得られるサンプルのデータ分析に基づいて、地域連環の諸相について考究し、観光振興と環境保全を総合的に把握しながら、今後の地域適正化対策を検討する実習である。今回で 7 回目となった。2009 年度も引き続き、古座川最上流域に位置する北海道大学北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林と共催で、フィールド研・紀伊大島実験所を活動拠点とし、9 月 18 日（金）から 9 月 24 日（木）に開催された。北海道大学 1 回生 6 名（文学部 1 名、工学部 1 名、農学部 3 名、水産学部 1 名）、京都大学学生 6 名（教育学部 1 名、農学部 3 名、理学部 2 名）が参加した。担当職員は北大側が、准教授 1 名、技術職員 1 名、TA2 名、京大フィールド研側が准教授 2 名、講師 1 名、助教 2 名であった。日程と実習内容は以下の通りである。

18 日（金）JR 紀勢線周参見駅に 11 時 37 分に集合、北大マイクロバスに乗車、北大和歌山研究林見学、古座川流域ならびに串本湾岸域を巡検後、紀伊大島実験所に到着、15 時から全体のガイダンス、「古座川合同調査報告集」や「地域フィールドガイド」など資料配布、参考テーマ提供、仮の班分けを行った。

19 日（土）里域および自然域各系およびその相互連環性を把握し易いテーマを作成、それぞれの担当教員と共に実習に入った。一部は北大和歌山研究林に向かい、それぞれ宿泊および調査。取り組んだテーマは「人間とコウモリ」「古座川における食文化と環境変化の相互作用」「水生昆虫調査報告」であった。

20 日（日）～22 日（火）テーマ別に調査、分析、検証、作戦会議、議論を行った。21 日午後には、古座川本流中流域の奇岩名勝・一枚岩河川敷にて全班合同で中間報告会と河川流量測定を行った。

23 日（水）紀伊大島実験所で調査結果を分析し、仮報告書を作成、班ごとに調査内容の発表を行った。森里海連環学的立場からの活発な質疑応答が展開された。

24 日（木）清掃、報告書・アンケート用紙提出、記念撮影、解散。



古座川中流域に位置する一枚岩河川敷公園で行われた中間報告会（2009.9.22）



古座川中流域の一枚岩前での流量測定実習（2009.9.22）